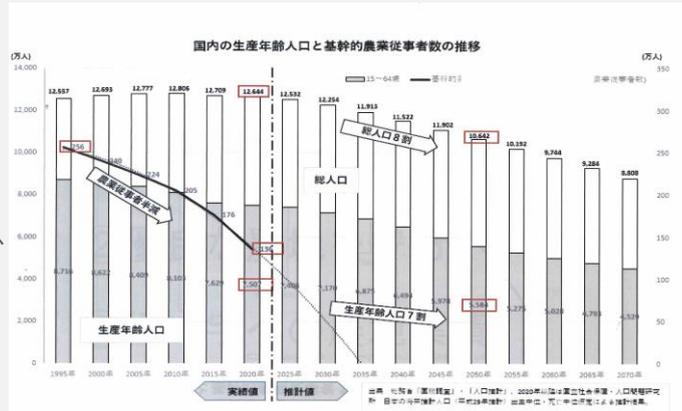


## 1. 現況

## 背景、農地等をめぐる状況

- 我が国において、**高齢化・人口減少が本格化**する中で、**農業者の減少や耕作放棄地の拡大**がさらに加速化し、地域の**農地が適切に利用されなくなる懸念**
- 生産の効率化やスマート農業の展開等を通じた農業の成長産業化に向け、地域において、**農地が利用されやすくするよう**、目指すべき**将来の具体的な利用の姿**等を描き、**分散錯圃の状況を解消して、農地の集約化等**を進めるとともに、**人の確保・育成を図る措置**を講ずることが必要



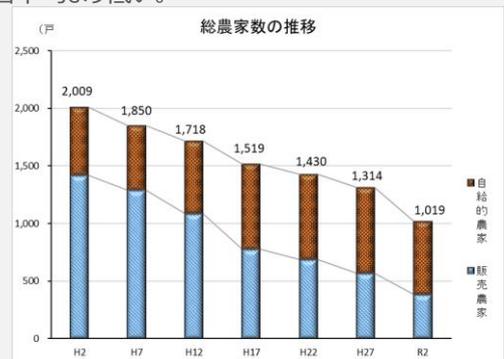
1

## 3. 町の現状

## 農林業センサスから見た、町の現状と課題

## 【農家数等】

- 新規就農・親元就農により新たに農業を始める方は一定程度いるが、農家数は、長野県・全国平均を上回るペースで減少しており、30年前と比べ約50%、10年前と比べ約30%減少している。
- 農業後継者が確保されている農家は、近隣市町村や長野県・全国平均より低い。
- 販売農家数の減少率は、長野県・全国平均を上回っている。自給的農家も減少傾向にあるが、30年前と比べ増加しており、何らかのかたちで農業に関わる方が一定数いることが分かる。
- 農業従事者数では、全ての年代で国勢調査に基づく人口減少率を上回っている。70代以上の人口はあまり変わっていないが、70代以上の農業従事者数の減少率が高く、長野県・全国平均を上回っている。



## 3. 町の現状

## 農林業センサスから見た、町の現状と課題

## 【農地等】

- 経営耕地面積が10ha以上の経営体が増えているが、0.3haから2haの経営体が全体の7割を占めており、10年前と比べ約50%減少している。0.3ha～1haの経営体の割合が高く、長野県・全国平均を上回る。
- 1経営体当りの耕地面積は増加しており、農地の集約化が進んでいる状況が伺える。
- 経営耕地面積は、10年前と比べ30%近く減少しており、減少率は長野県・全国平均を上回る。
- 借入耕地面積はあまり変わっていないが、借入耕地面積の占める割合は、長野県・全国平均を上回る。
- 自給的農家の耕作面積の構成比は、長野県・全国平均よりも高くなっている。
- 耕作放棄地面積は増加傾向にあり、耕地面積の約4割となっている。
- 農家区分別の耕作放棄地の状況について長野県・全国平均と比較すると、土地持ち非農家では低いが、総農家（販売農家・自給的農家）の割合が高い。

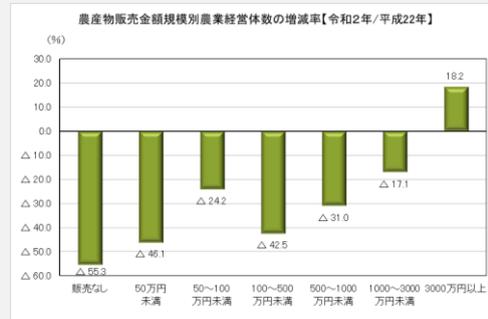
3

## 3. 町の現状

## 農林業センサスから見た、町の現状と課題

## 【農産物販売額等】

- 3000万円以上の販売規模の経営体は増えている一方、50万円未満規模の経営体が大きく減少しており、長野県・全国平均を上回っている。
- 農業産出額で多い品目は、畜産次いで野菜となっている。平成18年と比べ、花き、米等で減少しているが、畜産、野菜、果樹で増加している。



4